

令和7年度

京都市立光徳小学校

校長 田村 竜一

光徳だより

kotoku elementary school

kotoku-s@edu.city.kyoto.jp



今年度も早いもので学年度末を迎えることとなりました。

本校では学校教育目標のもと、3つのプロジェクトを立ち上げ、子どもたちのより良い成長のため、取組を進めています。一年間の取組の成果をまとめましたので、ご報告させていただきます。



学校教育目標

『自ら学び 自信と誇りを持ち 共に高め合う子の育成』
～かしこく やさしく 元気よく～

各チーム(プロジェクト)の目標は、以下の通りです。

	今年度目標
かしこくチーム (知プロジェクト)	「話す子ども」を育てる授業づくり ・子どもたちの対話力向上 ・教員の授業に対する意識改革
やさしくチーム (徳プロジェクト)	心やさしく ひとを大切にする子 ～仲良く過ごすために、気持ちの伝え方を工夫する子～
元気よくチーム (体プロジェクト)	生活リズムを整え健康で 元気に学校生活を送ることができる子どもの育成



知・徳・体それぞれの詳しい結果をまとめました。本校では、取組の結果を児童の姿のみで測るのではなく、アンケートの結果を数値化し、より客観的に結果を見ることができるようになっています。知・徳・体どのプロジェクトでも成果を出すことができました。これは、学校だけでなく、ご家庭でも同じように取り組んでくださったからこそその結果だと考えます。今年度の取組にご理解・ご協力いただき、本当にありがとうございました。

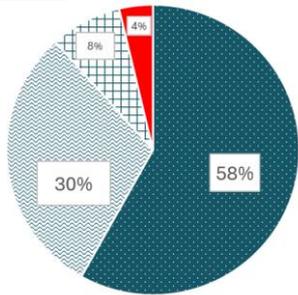
<かしこく(知)>

今年度、知プロジェクトでは、子どもたちに話す力がつくよう取組を行ってきました。週に1度スキルタイムで「対話力アップトレーニング」を実施し、それぞれの学年に合わせた「話す」「聞く」「質問する」練習を繰り返しました。また、どの授業でもペアやグループなどで話し合う時間を設け、自分の意見や考えを進んで伝えられるようにしてきました。

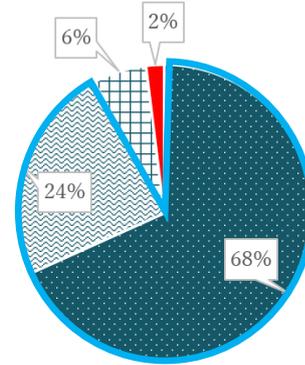
その結果、以下のように子どもたちの意識が変わりました。

<得意な教科や好きな教科で、自分の考えをペアやグループの中で発表することができますか>

昨年3月

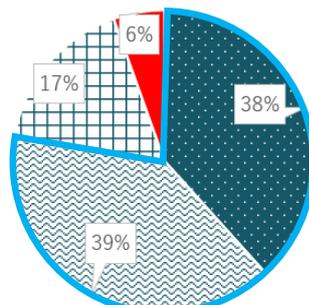
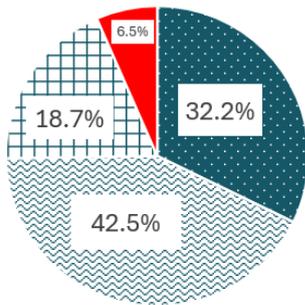


12月



「できる」「どちらかといえばできる」を合わせると、「得意な教科」では92%、「苦手な教科」でも77%の児童がペアやグループで自分の考えを発表することができますと答えている。

<苦手な教科や嫌いな教科で、自分の考えをペアやグループの中で発表することができますか>



授業者がペアやグループでの対話を毎時間意識して設定することで、児童の対話に対する意識が高まった。

国語の教科書の「話す」「聞く」「対話」項目に合わせて、各学年の対話のめあてを設定し、アンケートを取りました。

<対話のめあて①>

	(昨年3月)	(12月)
できない	33%	→ 20%
できる	67%	→ <u>80%</u>

<対話のめあて②>

	(昨年3月)	(12月)
できない	64%	→ 28%
できる	46%	→ <u>72%</u>

学年ごとに設定した対話のめあてについては、「どちらかといえばできる」「できる」と感じている児童が大幅に増えた。国語科「話す・聞く」単元で学んだことや「対話力アップトレーニング」で培った力を他教科・様々な場面で生かし、自信をもって話している様子が見られる。

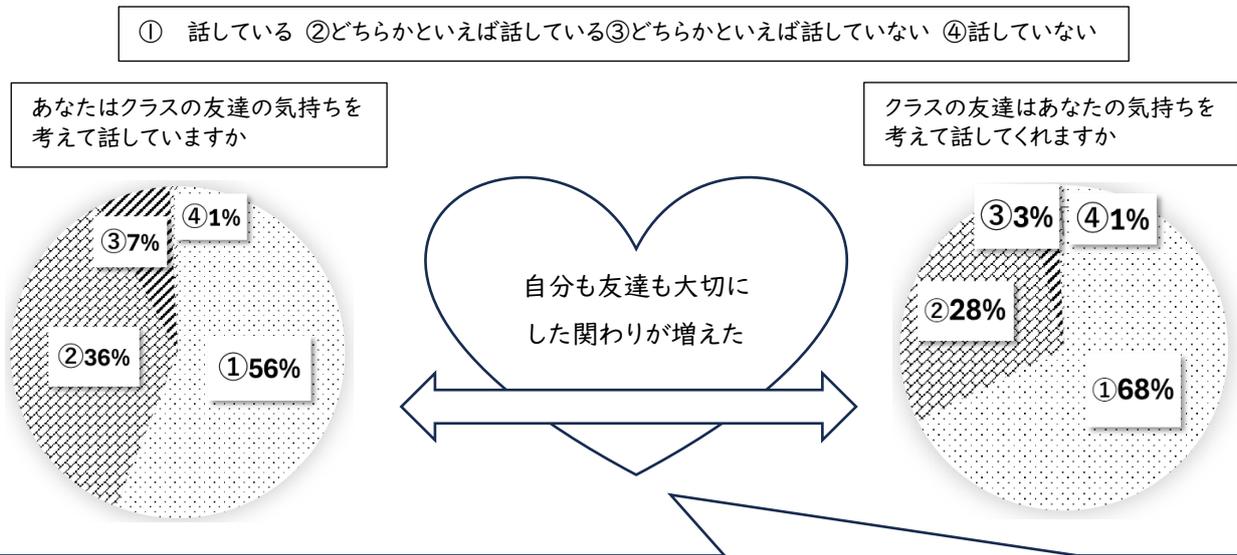
深い対話は、安心して話せる場の中、考えたことを言語化する経験の積み重ねから生まれると考えています。児童の対話力を向上させる取組を学校全体で行うことで、自分の考えをもち、友だちと対話を楽しむ児童を育てることができました。

また学校での取組だけでなく、ご家庭でも普段の話を聞いてくださる中で、「聞いてもらえた」「もっと話したい」という思いを子どもたちが持っています。今後も学校と保護者の皆様とが協力しながら、子どもたちに力をつけていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<やさしく(徳)>

今年度のやさしくチームでは、「相手の気持ちを考えながら、自分の思いも伝えられる子ども」の育成を目標に取り組んできました。毎月のSCENEでは、学校生活の中での具体的な場面をもとに、「どのように伝えていけばよいか」「相手はどのように感じるか」を全校児童が考える機会を設けてきました。また、たてわり活動での実践や児童集会での呼びかけなど、学んだことをくり返し意識することで、自分も友達も大切にしたい関わり方が身につくようになってきました。その積み重ねにより、言葉の伝え方を意識する姿や、相手の気持ちに寄り添う姿が見られるようになってきました。

○1 年間の取組の成果



「相手の立場になって考えて話せるようになった」や「気持ちを考えて話してくれると嬉しい」「やさしくチームの今月のSCENEの取組を通して考えて話すようになった」などの記述が増え、今月のSCENEやたてわり活動を通して**自分の気持ちも友達の気持ちをも大切にしながら関わろうとする姿**が増えました。

保護者アンケートより
相手に自分の気持ちを伝えることができる(89%)、相手の気持ちを考えて話すことができる(79%)と回答。保護者アンケートでも、家庭での会話の中で伝え方を意識している様子が見られるという回答が増え、学校での学びが日常生活にもつながってきていることが分かりました。



～たてわり活動～
掃除の仕方を1年生に伝えています。
分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかな。

～委員会の取組～
どう伝えたら相手に伝わるか考えて
声をかけています。

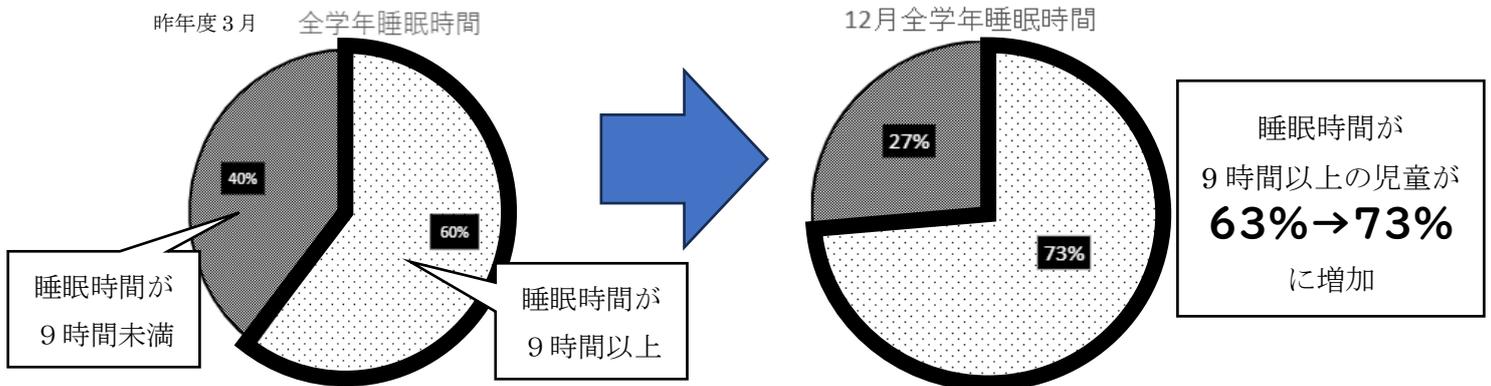


アサーティブコミュニケーションを意識した取組を続けてきたことで、子どもたちは相手の気持ちを考えるだけでなく、自分の思いも大切にしながら伝えようとする姿が見られるようになりました。今月のSCENEの取組やたてわり活動や日々の関わりの中でも「どんな言い方をしたらよいか」「相手はどう感じるか」と考えて話す姿や、友達の気持ちに寄り添おうとする姿が日常の中で多く見られるようになり、安心して気持ちを伝え合える集団へ成長してきています。これからも子どもたちが自分も友達も大切にしながら関わっていけるよう支えていきたいと思ひます。ご家庭でも温かく見守り、声をかけていただきありがとうございます。

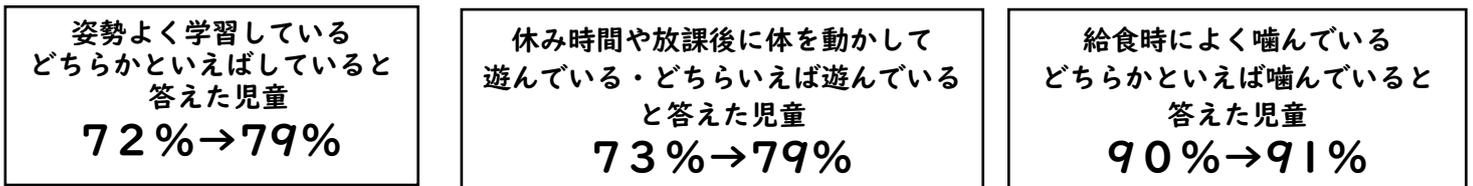
<元気よく(体)>

今年度の元気よくチーム(体プロジェクト)では、「生活リズムを整え健康で元気に学校生活を送ることができる子どもの育成」を目標にしました。元気よくチームでは、姿勢・運動・咀嚼を通して児童の睡眠時間を9時間以上取ることができる児童を増やし生活リズム(睡眠時間の確保)を整えていきたいと考えました。この3つの取組は幸せホルモン(セロトニン)の分泌を促す効果があるといわれています。幸せホルモンが分泌されることによって良い睡眠をとることができたり寝起きが良くなったり、心がリラックスするなどの効果があります。

そこで今年度は、その効果に着目し学習時の姿勢保持(立腰)、朝のウォーキングダンス(運動)、よく噛んで給食を食べる(咀嚼)の3つの取り組みを進めてきました。その結果このような成果が出ました。



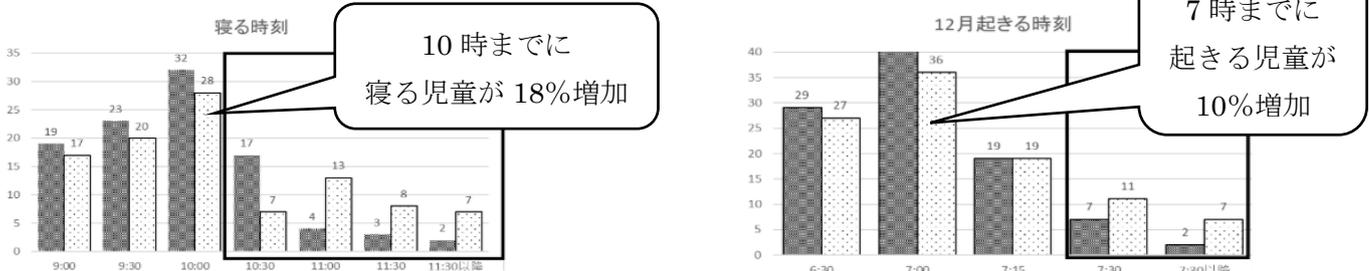
また、学習時の姿勢保持(立腰)、朝のウォーキングダンス(運動)、よく噛んで給食を食べる(咀嚼)の項目について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童も次のように変化しました。



このように、睡眠時間が9時間以上の児童が60%から73%まで増加しました。これは、学習時の姿勢保持(立腰)、朝のウォーキングダンス(運動)、よく噛んで給食を食べる(咀嚼)の取組を1年間継続して行うことで、取組が日常化し定着することできたと考えます。

また、咀嚼に関しては「よく噛んでご飯を食べている児童」と保護者との差が30%近くありましたが今回のアンケートでは20%ほどの差になっていました。この結果、学校で行っている取組が家庭でも定着しているのではないかと考えました。今後も引き続き、意識していけるよう、学校でも咀嚼の効果など伝えていきたいと思ひます。

生活リズムも向上



睡眠時間が9時間以上の児童が増加したことで寝る時刻や起きる時刻が改善しています。「10時までに寝る」「7時までに起きる」児童の増加から決まった時刻に寝る・起きるが定着していると考えました。家庭のこともありなかなか変化することが難しいと考えていましたが、大きく増加したことがわかります。学校はもちろん家庭との協力があつたから達成できたと感じています。今後も教職員一丸となり児童のより良い成長ができるように進めていきたいと思ひます。